

令和4年2月1日

阿賀野市議会議長 市川英敏様

社会厚生常任委員会委員長 大滝 勝

所管事務調査報告書

本委員会は、令和3年第6回議会定例会において議決を経た、閉会中の所管事務調査を下記のとおり行ったので、会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事項 吉田東伍記念博物館の現況について
- 2 調査期日 令和4年2月1日(火) 午前9時30分
- 3 調査経過

令和4年2月1日、山崎民生部長、羽田生涯学習課長、並びに担当職員の出席を求めて本委員会を開催し、調査事項について担当課長から説明を受け、質疑・意見集約を行いました。

- 4 調査結果

吉田東伍記念博物館は、わが国初の全国地誌「大日本地名辞書」の著者、吉田東伍を記念してその生誕地である旧安田町に平成9年に設置されました。

【施設の概要】

- ・開館時間 午前9時30分から午後5時
- ・休館日 原則、毎週月曜日、年末年始や祝日の翌日等
- ・入館料 一般300円、小中学生150円（20人以上の団体はそれぞれ50円引き）
- ・人員体制 行政専門員1名とシルバー人材センターからの派遣または会計年度任用職員1名

1階の展示室には、著書や原稿、遺品を中心に多くの資料が常設展示されています。ワークスペースも設けられており、来館者は吉田東伍の著書はもちろん、ゆかりの人物に関するものなど、多くの蔵書を自由に手に取って閲覧や調べものができます。平成9年のオープン以来、展示替えされていないため、コンピュータシステムの活用を紹介する情報ライブラリーに内容の古さを感じる部分もありました。2階の研修室と研究室は企画展で利用されます。

【現在の課題】

来館者の減少と施設の老朽化が課題となっています。特に令和2年度と今年度は、来館者数が例年の半分まで落ち込んでいます。新型コロナウイルス感染症の影響により、集客の要である企画展が中止されたことと、団体での来館がほとんどなくなっていることが原因ですが、企画展を小規模にして開催する検討も感染の急拡大により十分できないなど、難しい状況にあります。また、開館から25年近くが経ち、各種設備の更新時期を迎えている中、最大の問題であった消火設備と空調関係は令和2年度から令和4年度までの年次計画で更新しています。他の不具合箇所については、緊急性や予算等を勘案しながら計画的に改善していくとのことです。

【事業の実績】

企画展をはじめとする博物館独自の事業や吉田東伍記念博物館友の会共催事業など、年間を通じて各種事業が実施されています。友の会の活動は博物館の運営やボランティア活動にもおよび、博物館が生涯学習活動の拠点になっているとのことです。令和2・3年度はコロナ禍によりほとんどの事業が中止になりました。

【懸案事項】

常設展示の展示替えが懸案事項となっています。現在の展示は、市民や有識者等の意見を集約して策定された展示計画に基づいたもので、開館当時のままです。完成度が高い展示ではありますが、展示替えに備え、現在は寄託品などの確認を進めているとのことです。

質疑および意見

現地調査を終えて、委員から以下の質問や提案がありました。

○企画展を含め、アフターコロナを見据えての準備は検討しているか。他との連携やチラシや封筒などの更新で知名度アップを図ってはどうか。

⇒新型コロナウイルス感染症の影響により延期された令和2年度の企画展や各種イベント等の計画を、状況が落ち着き次第、順次実施したい。他の施設でのチラシの配置も再開をし、博物館をPRしたい。チラシ等の更新は今後考えていく。

○来館できない方にも見てもらえるように、多数あつて展示しきれない所蔵品などをデジタルで紹介するような仕組みの構築を検討してはどうか。

⇒今は具体的な計画はないが、精査して前向きに取り組んでいきたい。

○素晴らしい内容の博物館を後世に残すためにも、担当職員の後継者養成、確保、配置を検討してほしい。

⇒担当課としても懸念している。係を含め、体制を整える必要があると考える。要望したい。

○ポスターやリーフレット等を見直し、興味のない人も博物館を訪れたいと思うよ

うな宣伝効果の高い内容にしてほしい。

○吉田東伍の業績を広く知ってもらうよう「広報あがの」でお知らせしてはどうか。

⇒「広報あがの」にはしばらく掲載していないので、今後考えていきたい。

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況もありますが、事業内容や宣伝方法の工夫、担当職員の後継者の育成なども含めて検討し、日本歴史地理学のパイオニアと呼ばれる吉田東伍の業績を今後も市内外に発信し、多くの方に来館していただける博物館となるような取組みを望む意見が出されました。

以上、社会厚生常任委員会の所管事務調査の委員長報告といたします。